

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1(住宅団地整備、地震(津波)災害時の避難所の確保)</p> <p>二色団地、有田大山団地の建替えを4ヶ年で計30戸おこない、居住面積、駐車スペース等の整備による住環境の向上を図る。 特に、二色団地では、当初現地での建て替えを計画していたが、2DKで計画していた間取りを3DKで計画して欲しいとの入居者よりの要望が強く、間取りを3DKに変更することにより現地建て替えでは用地面積が不足するため、新たに用地を求め建設することとしたが付近には河川があり敷地が護岸壁より低いため、大雨、津波時の河川の氾濫による被害が想定されること、また、敷地はもともと水田のため湿気が多く建物にも影響することから、土地を造成を行い、嵩上げる。 田並団地については、54年度建設以来28年が経過し、老朽化が進んでいる状態で、特に外壁についてはクラックが入り剥離し大変危険な状態であり、腐食も激しく景観上見苦しい状況にあることから、早急に外壁の修理及び周辺の塗装により景観改善を図りたい。</p>	<p>方針に合致する主要な事業 公営住宅整備事業</p> <p>提案事業</p>
<p>整備方針2(道路環境の整備)</p> <p>道路整備(改良・新設)をおこない、円滑な交通を確保するとともに、避難場所等へ安全に短時間で避難できるよう考慮するとともにまちの防災性を高める。また、新設道路については、西の岡(避難指定場所)造成地への進入道路となる。</p>	<p>道路整備事業</p>
<p>整備方針3(地域防災施設の整備)</p> <p>旧串本地区は低地にあり、また海岸線近くに住居があることから地震災害時(特に津波)には、避難する高台まで時間がかかるため、一時避難場所として防災タワーを整備する。また串本地区、田並地区、有田地区、江田地区、袋地区、大島地区に地震災害時(特に津波)早急に高台に避難できるよう避難路、避難灯を整備する。(12箇所) 潮岬中学校校舎建替え事業 昭和26年に主となる校舎を建築し、その後生徒の増加や教育内容の多様化により増改築を重ねた校舎となっている。そのため教室配置等使いにくい状況となっているうえ、老朽化が激しく、教育環境の改善、また地震等災害には危険であるため早急な改善が必要となっているので建替える。</p>	<p>地域生活基盤施設整備事業</p> <p>提案事業</p>
<p>整備方針4(防災意識の高揚)</p> <p>今後発生が懸念される東南海・南海地震は超広域災害といわれています。そのため発災直後の自主防災組織が果たす役割は大変大きいため自主防災組織を支援し、組織の強化を図る。</p> <p>地域自主防災組織活動支援 災害時の区民の意識の高揚を図ること、また自主防災組織のものは区からのわずかな補助金しかないため、防災資機材等の備蓄及び配備計画等に沿った補助をおこなう。</p>	<p>提案事業</p>
<p>整備方針5(国際交流・観光イベントを中心とした観光客の集客)</p> <p>国際交流・観光イベント(マラソン大会)を通じて串本の自然のすばらしさや、国際交流のまち串本を全国にアピールし、観光客の集客をおこないるとともに、ボランティア活動による地域の振興を図る。</p> <p>観光イベント支援 本州最南端サンセットマラソン大会は、平成17年度には第4回大会となり、地域に根ざしたイベントとして定着しつつあります。 この大会開催するには多くの地元スタッフが必要であり、この大会が串本町のボランティアの組織づくりの契機になりつつあります。 南紀串本のすばらしい自然をアピールするとともに、参加者が串本へ宿泊してもらえるよう土曜日のサンセット時間にゴールするよう配慮している。大会を継続開催することにより、ボランティア活動による地域振興を目指すとともに、運営団体への支援をおこなうものです。</p> <p>国際交流イベント支援 オスマン・トルコ帝国の最初の親善使節の乗艦として日本に來航した「エルトゥールル号」の遭難追悼祭を5年ごとに県、トルコ共和国等関係機関と相互協力して実施してきたが、平成17年には115周年の追悼祭及びトルコ国との交流事業を実施し、本町の活性化を図るとともに国際交流のまち串本をアピールするもの。</p>	<p>提案事業</p> <p>提案事業</p>
<p>その他</p>	
<p>交付期間中の計画の管理について</p> <p>交付期間中において、各種の事業を円滑に実施し、目標に向けて確実な効果をあげるために、各課が事業成果を確認する。</p>	